今日のイラスト 568　「 イラストでたどる石州街道⑨　仁壁神社 」　　古谷眞之助

イラストでたどる石州街道 09 仁壁神社

長らく宮野地域の氏神様として崇められてきた仁壁神社の創建は大和政権時代にまで遡ると伝えられるが、文書記録の初出は天安二年（８５８）と言われている。その後、仁壁神社は周防三ノ宮として位置づけられて人々に深く崇敬されてきた。大内氏第30代・義興は九州での戦勝を報告するため周防五社を巡った際、三番目にここに参拝している。

また長州藩第４代・毛利吉廣は何度もここに参拝して、鳥居近くの庭に「市原虎の尾」の桜を自ら植えたと言われており、それは約三百年後の今も美しく咲き誇る。そして塩漬けにされたその桜花は、桜茶として歴代藩主の参勤交代の際に、萩往還の釼切御駕籠建場で振る舞われたと記録に残っている。

文・イラスト＝古谷眞之助

実はこの神社について偉そうに語る知識などまるでなくて、記事に書いた内容自体も、語り部の会の会長に教えていただいたものである。ごく一般的な日本人と同様、確たる信仰は持たないくせに、正月には初詣に向かい、クリスマスには一応それを理由にそれらしい食事をしたり、不幸ごとなどあれば、お寺さんのお世話になったり、というレベルだから、神社仏閣に関する知識など、もとよりないのである。しかし、歴史街道ガイドの際には神社仏閣は避けて通れない。あの時代には、日本人は特に神や仏を大切にし、祭り（ 祀り ）を欠かさなかった。ここでいう祭りとは、もちろん秋祭り、春祭りという類の祭りではなく、いわゆる神事のことである。そんなわけで、萩往還沿いの神社仏閣についての一応の知識はあるにはあるが、石州街道沿いには、例えば防府天満宮のような大規模なものはないから、勢い勉強不足になっている。ただ、この仁壁神社は周防五社の一つであり、社格も高く特筆すべき神社である。

英語ガイド（ 地域通訳案内士 ）の研修中に講師からは、海外からの方は武士、忍者とともに神社仏閣については大いに興味を持っているので、しっかりと対応できるように勉強しておくようにと言われた。例えば神社と寺院の違いについては、まず質問されるので模範解答を用意しておくのが良いとのことだった。もっとも宗教そのものに関する話題は避けた方が無難と言われたが、敢えて問われれば、あくまでさらりと自分の意見を披露する必要も出てくるともアドバイスされた。事実講義の中では防府天満宮、周防国分寺、太鼓谷稲荷神社、津和野カトリック教会、乙女峠マリア聖堂、元乃隅神社などの解説ができるように求められたのである。まぁ、政治向きの話と同様に神社仏閣に関する話題も、あくまで歴史の枠の中で捉えるべきで、個人的見解ではなく事実に基づいたガイドが肝要であり、深入りは禁物であると心したような次第である。

さて、いよいよ今年も押し迫ってきた。といって来年は初詣をどうしようかなどとは悩んではいない。間違いなく行く。そうしないと何となくスッキリしないし、年の初めのケジメが付かない。案外こういう感情こそが日本人の宗教心の真実を突いているのかもしれないと思ったりもするのだが。（ 2022.12.26 記 ）